

第56回

神奈川県 美術展

THE 56TH KANAGAWA ART EXHIBITION 2021

全国公募展

第56回神奈川県美術展

The 56th Kanagawa Art Exhibition 2021

1期展 [平面立体]

2021年8月25日(水)～9月5日(日)

2期展 [工芸・書・写真]

2021年9月8日(水)～9月19日(日)

会 場

神奈川県民ホールギャラリー

厚木巡回展

2021年9月21日(水)～10月2日(土)

休み：9月24日(金)・27日(月)・28日(火)・
29日(水)

会 場

厚木市文化会館展示室

主 催

神奈川県美術展委員会

神奈川県民ホール

[指定管理者：(公財) 神奈川芸術文化財団]

神奈川県

共 催

(公財) 厚木市文化振興財団

協 賛

(公財) はまぎん産業文化振興財団

神奈川県文具事務用品団体連合会

(株) ホテル、ニューグランド

松田油絵具(株)

後 援

神奈川新聞社・NHK 横浜放送局

tvk(テレビ神奈川)・FMヨコハマ

第56回 神奈川県美術展 関係者名簿

(2021年8月25日現在)

神奈川県美術展委員会

委員長 磯見 輝夫
副委員長 鈴木 達也

委員

水沢 勉 加藤 良造 沢山 遼
清水美三子 狩野 智宏 富田 康子
船本 芳雲 石坂 雅彦 関次 和子
圓井 義典 赤池 玲子 薄井 英男

審査員

平面立体

石川 卓磨 加藤 良造 白井 美穂
棚田 康司 長門 佐季

工芸

狩野 智宏 北川 宏人 富田 康子
原田ユリア 松島さくら子

書

石坂 雅彦 笠嶋 忠幸 齊藤 紫香
日守菜穂子 水川 舟芳

写真

菊池 哲男 調 文明 関次 和子
タカザワケンジ 圓井 義典

応募・入選・入賞者数一覧

	平 面	立 体	工 芸	書	写 真	合 計
応 募	300 人 (399 作品)	54 人 (61 作品)	130 人 (160 作品)	176 人 (176 作品)	204 人 (520 作品)	864 人 (1,316 作品)
入 選	76 人 (76 作品)	23 人 (23 作品)	79 人 (83 作品)	91 人 (91 作品)	50 人 (50 作品)	319 人 (323 作品)
内、入 賞	8 人 (8 作品)	5 人 (5 作品)	9 人 (9 作品)	9 人 (9 作品)	10 人 (10 作品)	41 人 (41 作品)

※入選・入賞数は、2021年8月16日時点で確定した数字です。

※新型コロナウイルス感染拡大による緊急事態宣言発出により、観覧者を関係者のみに限定して開催。

(観覧者の限定による入選辞退：平面3人／立体1人／工芸5人／書0人／写真15人)

ごあいさつ



神奈川の文化芸術の力を結集した神奈川県美術展を開催できますことを、主催者の一人として大変喜ばしく思います。また、この美術展の開催に当たり御尽力いただきました関係の皆様方に、心からお礼申し上げます。

今年で第56回を迎える神奈川県美術展は、県内最大規模の公募展です。昭和40年の創設以来、芸術家を志す方から、趣味として創作活動に取り組まれる方まで、幅広く作品を発表する場として、県民の皆様に親しまれてきました。作品の水準も非常に高く、これまで多くの方々が入賞を機に全国、そして世界へと羽ばたいていかれました。

今回も、県内のみならず全国から数多くの優秀な作品が集まり、平面立体、工芸、書、写真の4部門合わせて1,316点にのぼる応募がありました。昨年度中止となってしまった分、皆様の熱い思いが込められた作品が多く見受けられます。

会場には、数々の力作の中から厳正な審査を経て選ばれた作品が展示されています。作家の方々が心を込め、自由な発想で表現した才能あふれる作品は私たちを大いに魅了することでしょう。

本県では、文化芸術の魅力で人を引きつけ、地域のにぎわいをつくり出す、マグネット・カルチャー（マグカル）の取組を推進しています。コロナ禍においても、感染防止対策を講じた上で、人々の心を豊かにする文化芸術活動に継続して取り組むことが大切です。

この神奈川県美術展が、作家の皆様創作活動を支援する展覧会として、こうした取組を更に加速させる大きな力になるものと考えています。

最後に、このたび御出品いただきました皆様の創作活動への情熱に深く敬意を表しますとともに、皆様のますますの御活躍を心からお祈り申し上げます。

令和3年8月25日

神奈川県知事 黒岩祐治

ごあいさつ



神奈川県美術展は、本県における美術の普及振興をはかり、県民文化の向上と作家の育成に寄与することを目的に、昭和40年に始まりました。県内随一の公募美術展として広く県民に親しまれるとともに、新進作家の登竜門としてこれまで多くの優れた美術家を輩出してまいりました。このことは、ひとえに多くの皆様のご尽力の賜物と心より感謝を申し上げます。

昨年は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、本美術展においても開催を中止せざるを得ませんでした。本年は感染症対策を十分に行った上で開催する運びとなりました。この1年間の「自粛生活」を経て、ご自身の創作活動と向き合ってこられた多くの方々の応募作品は、表現への熱意そのものであったように思います。全国から寄せられた応募数は、平面立体、工芸、書、写真の全4部門で1,316点にのぼり、各部門の厳正な審査の結果、全323点の入賞、入選作品が選ばれました。

本展は、多彩な美術作品を一度にお楽しみいただける絶好の機会です。また、神奈川県民ホールギャラリーの展示空間を活かした大作も見どころの一つです。

さまざまな想いのもと、多くの時間をかけ制作に臨まれ出品された、全ての皆様に敬意を表したいと思います。そして、これからもこの神奈川県美術展において、新たな時代を切り開くような作品と出会えることを祈念いたします。

本展において、厳正かつ丁寧な審査にあたられた審査員の皆様と、運営に関し専門的な立場からご助言をいただきました委員の皆様に厚くお礼を申し上げます。

さらに、各賞を賜りました公益財団法人はまぎん産業文化振興財団様、神奈川県文具事務用品団体連合会様、株式会社ホテル、ニューグランド様、松田油絵具株式会社様をはじめ、ご関係の皆様に厚くお礼を申し上げます。

令和3年8月25日

神奈川県美術展委員会委員長 磯見輝夫

目次

1 期展 平面立体

受賞作品目録 平面立体	6
入選作品目録 平面	7
入選作品目録 立体	8
審査講評 平面立体	9
平面立体 受賞作品	10

2 期展 工芸・書・写真

受賞作品目録 工芸・書・写真	20
入選作品目録 工芸・書・写真	21
審査講評 工芸	25
工芸部門 受賞作品	26
審査講評 書	32
書部門 受賞作品	33
審査講評 写真	39
写真部門 受賞作品	40

平面立体

1 期展

平面立体

大賞	石崎 朝子	東京都	側面からの風景	立体
準大賞	瀬川 寛	川崎市	耕地／別海町	平面
特選	坂本 美果	東京都	中間国中立犬	平面
奨励賞	こにしほなみ	東京都	BIT	立体
かながわ賞	赤木 花	川崎市	こいびとたち	立体
かながわ賞	伊藤 朋子	相模原市	敬愛	平面
県立近代美術館賞	岡崎 未来	横浜市	空と線IX	平面
県議会議長賞	三塚 新司	千葉県	Slapstick II	立体
美奨学会記念賞	久保 勝大	東京都	tracing the American shadow	平面
美奨学会記念賞	リンデン絢子	横浜市	Name Unseen	平面
はまぎん財団賞	米蒸 千穂	川崎市	A Rainy Day in Tokyo	平面
マツダ賞	城倉 綾子	大和市	溢れる水辺	平面
厚木市文化振興財団賞	小島 美香	厚木市	バックエントランス	立体

※かながわ賞は、神奈川県在住・在学・在勤の出品者の作品を対象とした賞です。

※県立近代美術館賞は、平面立体部門において神奈川県立近代美術館による作品買い上げ賞です。

※県議会議長賞は、平面立体部門において県議会議長より贈られる賞です。

※美術奨学会記念賞は、長年、神奈川県美術振興に寄与してきた財団法人神奈川県美術奨学会を記念して創立され、35歳以下を対象とした賞です。

※はまぎん財団賞は、平面立体部門において（公財）はまぎん産業文化振興財団より贈られる賞です。

※マツダ賞は、平面立体部門において松田油絵具（株）より贈られる賞です。

※厚木市文化振興財団賞は、厚木市在住の出品者を対象とした賞です。

※県立近代美術館賞以降の賞は、創設順に記載しています。

※各部門の大賞・準大賞の略歴は受賞者からの提供によります。

※都道府県および市町村名は出品者の現住所です。

平面

知久 茂雄	記憶の街・桜
手嶋 遥	間
藤森 哲	tableau2020-04 (FLORENCE)
門多 隼也	目の場所 2
石井 寿幸	Selfie
笹井 弘	Human Trace 一痕跡一 NO.274
新埜 康平	蒼の炎
石井 里枝	小町通り商店街
山本 諭史	ハケ岳散策
菊川 恵子	タビノカケラ
よしたけなつき	ぱびこもおいで。
美 雪	不安がそこに居る
林 緑	fitting room
山田 龍吉	Always something on my mind
佐藤 沙月	嵐に駆ける
ドル萌々子	向こう側
荒井 颯子	楽園
森 かな子	よく見えない (よく見える)
いいじま まりえ	おとぎばなしの色にかえて
平子 暖	The empty filter
鶴田 慧	地殻踏査
Betjeman Timothy	A Climbing Plant
秋山 実生	folks
大森 隆義	明るい未来 2
生地みのり	準備をする人々
江越 里南	ノコル、残像
吉田 紋	高架下
後藤まどか	スクールゾーン
Suiluen	Animus and Anima
大場 将芳	人の風景 “Kankai desu.”
清水 麻実	それでも希望はある
橋本タカヒコ	時と空間の記録
山内明日香	piika
広瀬 弘幸	彼方
小野 直也	夕暮れの自画像
今井 凜	きんぎょ！
酒井 茂	if・畏怖
安田 文夫	欣求情土・厭離絵土
千葉 純子	農家の人
山脇 勇大	予兆

千葉 秀子	ウツロイー 2021
伊藤 夏実	幾重
石井 杏奈	ゆらぐ、ゆれる
安齋 菜由	たぶん
寺崎 麻里	自我像
宗像 里奈	ひかり咲く植物
中島 優奈	霧中の葉
月井 鈴菜	不安
大山 千春	「あっ！そうだね…」
林原 武夫	尽きせぬ欲望
井下 紗希	飲み込んで生きる
芥川 良子	ウミガシヌマエニ
大塚とみ子	宇宙のゆらぎ
金子健一郎	Freezia 紫色の夜を越えて
高橋ノブテル	サイレント・ステージ
岩瀬 哲夫	臓器旅行図
稲葉 明子	I wanna reborn!
南雲 未希	青い池
小出 康秀	一日一歩 (千百九十分の一) II
小林 守	無題 1
芹澤マルガリータ	Silence
佐々木了誉	遊び
井上 洋介	境界
袴田 真子	神話への別れ
久留宮和子	宇宙
菅谷扶美雄	大怪獣コロラ
神山 侑子	変化する孤
辻 裕美	5 メートルの底

※掲載は作品番号順です。

立体

高橋緋小羽	桃源郷考察・宥恕の天使／芸術家
鈴野 正次郎	蒼
相澤 秀人	Gravity problem（重力問題）
今泉 将也	Tafoni
ヒョーゴコーイチ	HANA SUMI
渡邊 正崇	世界花火 World Starmine
鈴木 智子	潤う
大平 暁	connect project
チェ ウォンジン	輝けば輝くほど
水のさとし	Sleeping
高田 文	ふたしかな存在
矢部もなみ	いのり
榛	永転の序
アール ツダ	安心
元木 孝美	stand
ワタナベ マリコ	F + B
中畑 良孝	群像劇
神山 豊	Mola Mola

第56回神奈川県美術展では、平面立体部門に354人から460作品の応募があった。この応募総数は前回よりも大幅に上回っている。公募展審査の経験はこれが初めてではあるが、今回集まった作品は傾向として、高い集中力を感じさせる作品が多かった。社会的に様々な制限が設けられ続けているこの息苦しい状況が、制作への向き合い方に影響を与えたかもしれない。高い集中力を持って、制作に真摯に向き合った作品は、ここでの結果がいかなるものであれ、大きな意義を持っていることをまず伝えたい。

タイトなスケジュールの中で、情報を何も持たず、大量の作品を判断していくこと、その評価方法は万能ではない。だが同時に、審査委員がこれまでの知識や経験、および感性をフル回転させて審査する、そのシビアさがある。どんなに技術の水準が高い作品であっても、知らないものに触れる、触れようとしている試みを感じなければ選ぶことはできない、という審査員全員の緊張感が、今回の審査過程の中で強い印象として残った。

ここからは全体の印象で曖昧にぼかしてしまうのではなく、個別的に作品を論じていくことで、審査講評としていきたい。

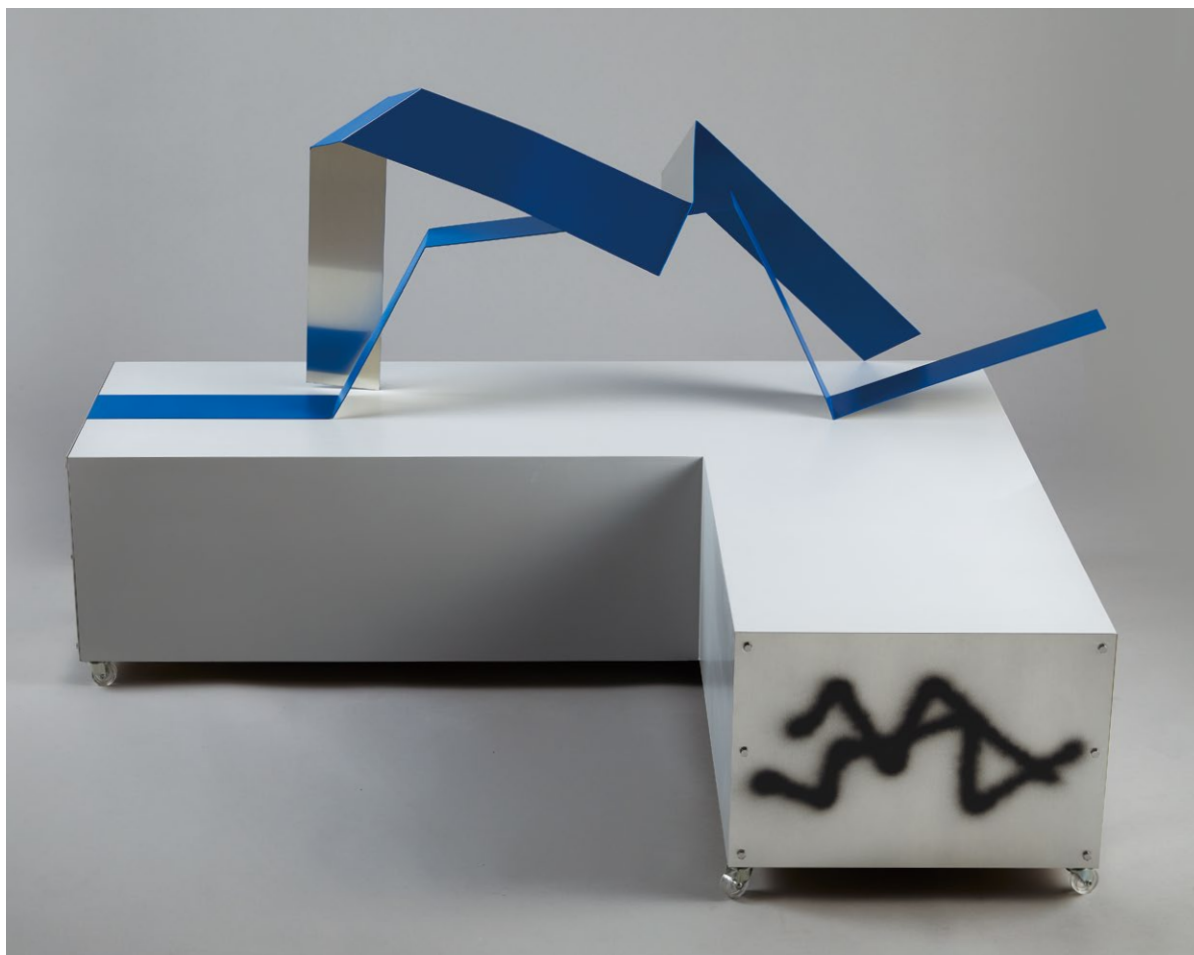
大賞を受賞した石崎朝子《側面からの風景》は、金属板を工業製品のように加工し塗装した構造物の作品だ。L字の台座の両端には、立体の側面図が黒のスプレーでグラフィティ（落書き）的に描かれている。立体と平面の統合と言ってもしまえば、アカデミックな問題に収束してしまうが、グラフィティ的描法によってこの構造物が日本の都市風景への言及であると示唆されている。この「中途半端」なグラフィティは、海外の完成度の高いそれとは異なる、日本のバナキュラー（土着）なものであることに気付かされた。また、本作の構造物の無表情さは、鑑賞者に情動を抜きにして理性的に対象を観察させることに成功している。リスクを持った着眼点が、出品作品の中で最も際立っていたのが大賞の選考理由と言える。

瀬川寛の《耕地／別海町》は、画面の全てにピン

トがあった航空写真を、人間の視覚とは異なる機械的視覚として絵画化している。描き方も風景を忠実にトレースしているため、シルクスクリーンやプリント出力を意識させるが、近寄って見ると神経の入った筆致の積み重ねに驚かされた。この自然と人工、機械と人間などの対立的なものが結び付けられている視点は、別海町の風景そのものにも内在している。画面内に描かれているグリッドは、地図のグリッドではなく格子状防風林であり、北海道の大地を開拓していった人間たちの手によって作られた風景なのだ。大画面で地図のように正確に土地を描き起こしていく作業の時間と、別海町の地形・風景の歴史的時間の厚みが重なり合う説得力の高い作品だ。

坂本美果《中間国中立犬》のタイトルは、この作品自体の宙吊りと伴って印象に残るものであった。タイトル内で二度反復される「中（中間、中立）」は、絵画内の中景で示されている。画面左端の白いカーテンと中央に描かれた煙のような白い不定形は、鑑賞者、前景、中景、後景の分断を強調する。中景に描かれる裸婦と犬は明らかに孤立している。この裸婦はなぜ横たわっているのか、何かの象徴なのか。また裸婦に寄り添う黄色い犬は、視線を画面の外に向けているが何を見ているのだろうか。この不穏な状況を屋内から観ている設定に置かれている鑑賞者は、自分が無力な傍観者であることを認識する。世界中で起きている国家間や差別などで作り出される理不尽な暴力をメディアで見ている私たちの眼差しと重ねられているのかもしれない。

以上のような分析は、受賞者だからしているのではなく、審査の過程で注視すべき作品全てに行っている。このような分析がなされることを知り、自分たちはどう作品を作っていくのか。この応募経験からさらなる向上を目指して欲しい。



大賞

側面からの風景

石崎 朝子

木材・ウレタン塗料・アルミ
90×145×118cm 15kg

[略歴]

1996年 栃木県生まれ
2021年 武蔵野美術大学 造形学部彫刻学科 卒業
武蔵野美術大学 大学院造形研究科
修士課程美術専攻彫刻コース 1年在籍

[展示]

2017年 グループ展「ムサビアートサイト」(都立武蔵国分寺公園／東京)
2019年 グループ展「小平アートサイトよりみち芸術2019」(小平市立中央公園／東京)
2020年 グループ展「うわごと」(KOGANEI ART SPOTシャトー 2F／東京)
2021年 「令和2年度武蔵野美術大学卒業・修了作品展」(武蔵野美術大学鷹の台キャンパス／東京)
2021年 2人展「ストラップホール」(武蔵野美術大学鷹の台キャンパス／東京)
2021年 「武蔵野美術大学 優秀作品展」(武蔵野美術大学美術館／東京)

[企画・活動]

2019年 企画・実行委員長「小平アートサイトよりみち芸術 2019」(小平市立中央公園／東京)
2019年 企画・モデレーター「白川昌生トークイベント＜アートと公共性・地域アートの可能性＞」(小平市立中央公園／東京)
2020年 企画「うわごと」(KOGANEI ART SPOTシャトー 2F／東京)
2020年 企画「インストール・梱包レクチャー」(武蔵野美術大学FAL／東京)
2021年 トークイベント・登壇「ポリフォニックなタベ」(武蔵野美術大学美術館／東京)

[受賞歴]

2021年 「令和2年度武蔵野美術大学卒業・修了作品展」優秀作品賞受賞



準大賞

耕地／別海町

瀬川 寛

アクリル
162×130cm

〔略歴〕

1956年5月1日 東京生まれ 神奈川県在住
ホームページ <https://segawa.xyz>
2018年 第2回 日美展 絵画部門 大賞 外務大臣賞
2018年、2019年 第54回、第55回 神奈川県美術展 入選
2018年 公募—日本の絵画2018 佳作賞受賞
2019年、2020年 第30回、第31回 美浜美術展 入選
2020年 FACE2020 損保ジャパン日本興亜美術賞 入選
2021年 清須市第10回はるひ絵画トリエンナーレ
高北幸矢審査員賞
2023年予定 愛知県の清須市はるひ美術館にてアーティスト
シリーズでの市立美術館からの招待個展開催予
定（2023年1月14日～2月5日）



特選

中間国中立犬

坂本 美果

油彩・キャンバス
130.3×194cm



奨励賞

BIT

こにしほなみ

樟木

180×70×70cm 90kg

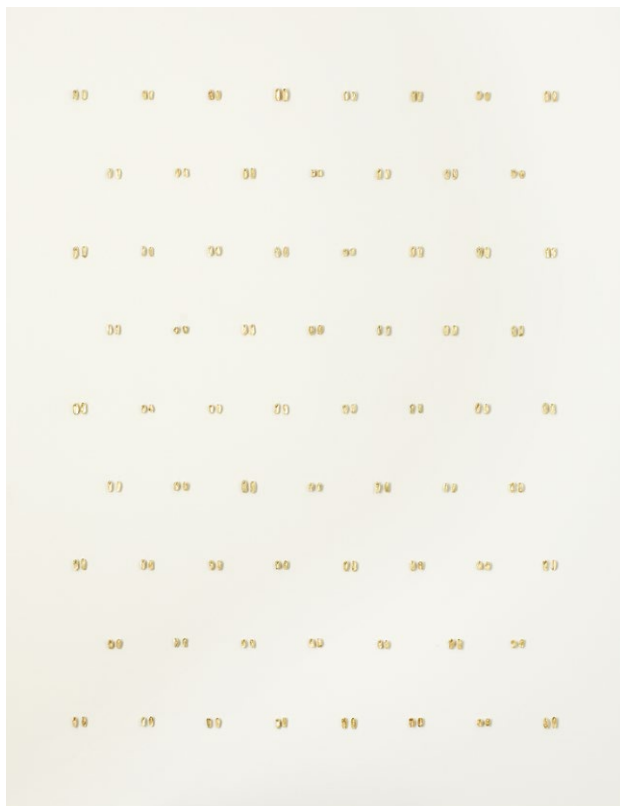
かながわ賞

こいびとたち

赤木 花

真鍮・木・布

145×112×4cm 8kg



かながわ賞

敬愛

伊藤 朋子

キャンバス・油彩
130.3×162cm

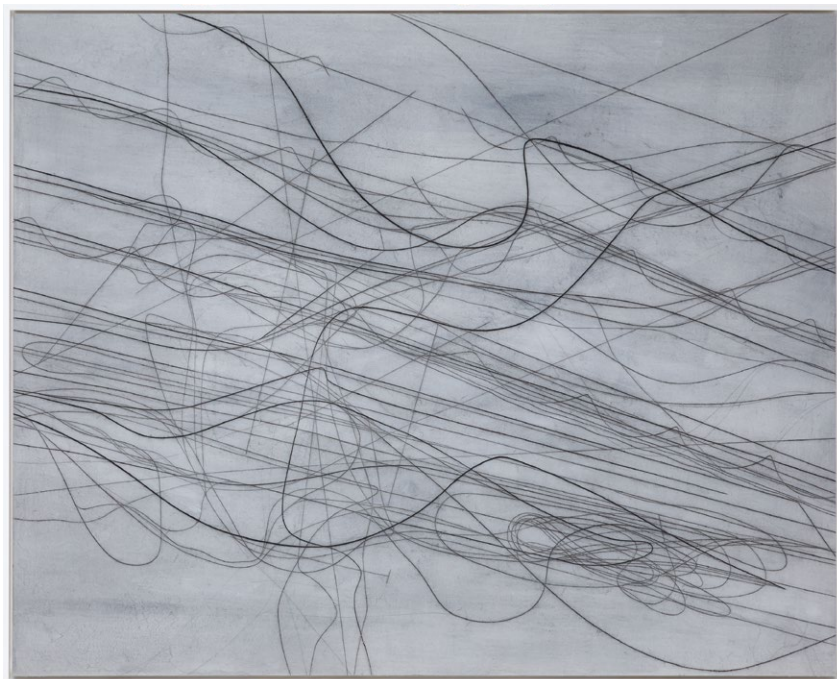


県立近代美術館賞

空と線IX

岡崎 未来

パネル・白麻紙・水干絵具・木炭
130×162cm



県議会議長賞

Slapstick II

三塚 新司

FRP

76×110×210cm 13kg



美術奨学会記念賞

tracing the American shadow

久保 勝大

布・シルクスクリーン

170×170cm



美術奨学会記念賞

Name Unseen

リンデン 絢子

木製パネル・テンペラ
65×159cm

はまぎん財団賞

A Rainy Day in Tokyo

米蒸 千穂

水干絵の具・アクリル絵の具
メディウム・和紙
162×227cm



マツダ賞

溢れる水辺

城倉 綾子

キャンバス・油彩
80.3×116.7cm



厚木賞

バックエントランス

小島 美香

砂岩
34×20×25cm 15kg

工芸・書・写真

2 期展

受賞作品目録

工芸

大賞	谷敷 謙	東京都	OLLIE IN	木目込み、特殊捺染
準大賞	牟田 有沙	横浜市	existence	刺繍
特選	藤本 りら	横浜市	ナニカ	織物・服飾
奨励賞	安部 里香	藤沢市	月下の森	染織
かながわ賞	生頼美砂恵	横浜市	力	陶
かながわ賞	西本 夏子	藤沢市	窓辺Ⅱ	漆芸
美術奨学会記念賞	山口 香菜	石川県	L'amour	染織
美術奨学会記念賞	山西なつ美	大阪府	それぞれの光をあつめて	漆
ホテルニューグランド賞	や万本遊幾	東京都	訪問着 降り積もる雪	染織

書

大賞	山口 大夢	川崎市	米芾 蜀素帖一節
準大賞	高原 香蘭	横浜市	山の端の
特選	平澤 毅	横浜市	天神様のお祭り
奨励賞	笠原 啓子	東京都	光に舞う群生
かながわ賞	久村 拓司	鎌倉市	波の聲（自作）
かながわ賞	松田 栖舟	横浜市	王漁洋二首
美術奨学会記念賞	小山 蘇龍	川崎市	蘇軾詩
美術奨学会記念賞	日守 鍊	中郡大磯町	光求めて
県文具事務用品団体連合会賞	水川 雙竹	海老名市	高秋

写真

大賞	DONG YUEYING	山形県	Unnatural	3 枚組
準大賞	石田省三郎	茅ヶ崎市	TUKIJI JONAI	3 枚組
特選	横山 渚	茨城県	何かを読んで見るには	2 枚組
奨励賞	小島 輝夫	横浜市	雪山、残照に輝く	
奨励賞	セキナオコ	横浜市	平行線を引く	
かながわ賞	伊東 隆文	横浜市	海	3 枚組
かながわ賞	三村 信昭	横浜市	ステイホームの日	
美術奨学会記念賞	あべまさひろ	東京都	親愛なるゴンザレスへ	
美術奨学会記念賞	鈴木ちひろ	東京都	Gravity	
厚木市文化振興財団賞	須釜 孝子	厚木市	わたし綺麗？	2 枚組

※かながわ賞は、神奈川県在住・在学・在勤の出品者の作品を対象とした賞です。

※美術奨学会記念賞は、長年、神奈川県美術振興に寄与してきた財団法人神奈川県美術奨学会を記念して創立され、35歳以下を対象とした賞です。

※ホテルニューグランド賞は、工芸部門において（株）ホテル、ニューグランドより贈られる賞です。

※厚木市文化振興財団賞は、厚木市在住の出品者を対象とした賞です。

※県文具事務用品団体連合会賞は、書部門において県文具事務用品団体連合会より贈られる賞です。

※各部門の大賞・準大賞の略歴は受賞者からの提供によります。

※都道府県および市町村名は出品者の現住所です。

工芸

桃山 三	色即是 空	皮革
小林久仁子	白檀	人形
田中 ちか	青の大壺 (蓋付)	陶
大森 美穂	泡の向こう	繊維造形
鈴木 貴久	鉄絵泥彩鉢	陶
や万本遊幾	訪問着 THE 桜	染織
石河美和子	「Wish」“We can do anything we want to if we stick to it long enough” タペストリー	
祖父江正子	はやぶさ2 旅の記録 津軽こぎん刺し (刺し子)	
日野ヒロミ	切り絵	工芸立体
aina	Latest objects	刺繍
勝本 恵子	ひかりの波	染織
Allison Gai	Predator 捕食者	ガラス
Yugo Ota	襦袢三彩壺	陶
さとうやすこ	VERSUS	陶
小杉 智洋	水面をくぐると	木材工
楊 夢夢	目撃者ークモ	刺繍 (画額付け)
久保島利恵	染付大壺 華	陶
萌工房 水田徹	壁面飾り棚	木材工
藤本 りら	キロク	織物・服飾
金子早智子	碧の朝	陶
天野 靖史	最後のこども	陶
佐々木雅子	MATE	人形
中村 綾也	幸魂	金工
KAMEO	天望台	ペーパークラフト
村上 詩歩	私のかんじょうくん	ガラス
片桐ひまわり	深淵	ガラス
米良 陽菜	碧空を仰ぐ	ガラス
津倉 知里	貴方に会いに	ガラス
Wang Sally	山法師	陶
寺内 木香	幼	金工
岩田 佳	Hiraeth 漂	染織
岩田 佳	Hiraeth 廻	染織
大島 規男	竜頭蛇尾衝立	モザイク・その他
彦坂 朋乃	Eagle Owl	ガラス
こにしえみ。	千羽鶴	ペーパークラフト
星野 智子	ラテンの鼓動 Noche Cubana	染織
小林 広美	重箱「たまちる」	漆

鈴鹿 萌子	古今の掛け物 6-8	染織
松本宗一郎	透削翼	ガラス
大倉 健	寄組ガラス 卯の花	ガラス
大寺 純子	森の声を聞く木精	陶
橘川 和男	只管打坐	木漆工芸
原田 克治	terrace	陶
田中 好子	礫Ⅱ	染織
興石 孝志	Faith	切り絵
加倉井秀昭	朧	ガラス
石渡 照久	風雲乱舞	木工
東海林伸和	黄瀬戸大壺	陶
大石 陸平	裸婦	木彫・漆
篠原 祐介	負けないさ!! さあー	皮革
原 千鶴子	天照大神	刺繍
古坊 聖子	石ころ	陶
壁谷庄太郎	壺・ピンクドキア	陶
穴戸 紀子	わたしは私	陶
福嶋 千遥	うに	染織
阿部 美咲	くゆりたつ	染織
ワタナベマリコ	Fluctuation and balance	陶
下平久美子	韶光	陶
瀬戸 千春	刺繍訪問着「憩い」	日本刺繍
単 璐薇	Remind	ほぐし緋(織)
薬王寺太一	Lepton	陶
笹尾 真	積 (太宰治「富嶽百景」より)	紙工
山崎 雄央	旅立ち	ガラス
赤岡真夕子	One and Only “至福のとき”	陶芸
藤田貴世美	年輪ー悲喜・渦まく歳月 (ねんりんピック かながわ2022によせて) パッチワーク・キルト	
大内 明雄	説破	陶芸
門田 眞幸	切子フラワーベース	切子
小酒井基紘	鶏とヒヨコ	織物
石橋 伸一	沈み行く、華やかな夕陽の燃え残り 漆の研ぎ出し	
石橋 伸一	沖縄の飛べない鳥、ヤンバルクイナ 漆の研ぎ出し	
浅野 慶太	木象嵌「細胞分裂」	木工 (木象嵌)
浅井 祥子	処暑の朝焼け	染織

※掲載は作品番号順です。

工芸

ZARAZUA ROSALES RAFAEL ALEJANDRO

Perdida/lost 彫刻・吹きガラス

浜田 邦子 le commencement ガラス

書

佐藤 白峰 寄左省杜拾遺

森 俊行 君が千歳

古河 裕子 月見れば

王 逸章 王維詩

片野 浩一 虫の音・風の音

古里 航 猷運之掌

松本佳乃子 題秦淮水榭

荒川 涼舟 感遇

名執 蘇雪 竹逕從初地

静 圭頌 昔聞洞庭水

沖田 裕子 西行のうた

中澤 春雪 古今和歌集

山田 栄恵 古今和歌集

大木 英泉 燧

柿沼 柏苑 呉江客中冬至日

上村 泊舟 代阮籍詠懷

奈良 静桜 坐友人東軒對月

柿沼 芳秋 桐廬舟中

吉川 理芳 桐江 其四

濱口 佳舟 途中別孫璫

加藤 香華 木末亭作

兎澤 羊舟 録別和李定夫

飯島 静翠 招張一桂

池田 風悦 白菊

葉狩 如悠 臨小島切

吉永 幽径 桐江

両角 花生 星の舟

稲垣 蓮珠 雪ほたる

吉村 明子 椰子の実

宮嶋 春峰 臘月夜

宮明 恵子 秋の祈

納富 晴子 流れ2

高橋 聖陽 時巡る

児玉 真理 北条石仏の千灯会

中山 政子 遠き日に

川島智恵子 水面のきらめき

石塚 紗知 枯葉一枚

篠 能里子 炬燵で猫になりながら

深沢 和子 山あいの郷

書

吉瀬 春翔	遅い春
長野 和美	ピエロの悲しみ
岩野 信吾	太陽と星
鈴木 游舫	忍野八海
水野 彩苑	日記をめくる
城戸 赫陽	母島の女漁師
清澤 可實	落葉吹雪
林 光韻	尾瀬の花たち
池田 美子	恋しやな
猪狩優里子	蜻蛉玉
吉留 真理	港の見える丘公園にて
曾根正知代	星の囁き
本間 琴秀	葡萄の実
長井 黙庵	東山魁夷の四季めぐりあい「春」より 曙（あけぼの）
比留川秀水	荒山正の上野の森
小林 千幸	さくら舞う
稻垣 美穂	幸セハ身ノ丈程ノ
川崎 純子	暮里乃月の詩
山本 清子	ももの節句
守山由三子	変わらぬもの
阿部 茜蝶	星の子
高橋 康子	漁火遠く
秋山 伸子	山家集より
大山 蘭翠	海を知らぬ少女の前に
水本 知葉	佛説弥勒成佛経
菅井 穂谷	張祜詩
伊藤 山翠	好學為福
永吉 仁	禍至不懼
那須 如隆	誨人不倦
岩浪 由美	かくとだに
河又世津子	ころころにも
富塚 香峻	王安石 葛溪驛
前橋 蒼峻	己酉歳九月九日
牛山 香流	杜少陵詩 柵樹爲風雨所拔歎
鳥海 花春	月なくば
河田 玲洸	風にちる
下門 芳子	照月
黒沢 玲香	杜甫詩「秋興」

蒲谷 雄一	山河
片岡 稲處	李白詩 塞下曲
岡野 堯渚	李白「長恨歌一首」
青樹 堯瑩	海市詩並序
浅見 玲湖	望廬山瀑布

※掲載は作品番号順です。

写真

菅原 郁夫	森の精霊たち	3枚組
新関 恵子	花面シンクロ	
竹下 清	ポートレートF	
荻久保次郎	眠り	
江波戸信雄	家族+1	3枚組
塚本 和男	釣師と富士	
稲次 正知	春よ 早く来ないで	3枚組
池田 義孝	distortion # 002	
林 恒徳	水面に映る	
うめまる	台風一過	
Shoji.K	我が街～中央林間～早朝の風景3	
新城 英一	駅舎の怪	
神蔵 和明	静穏の刻	
中村 隆成	Red	
DAICHI ITO	Talk to a Ship	2枚組
稲垣 健	夏の思い出	
朝田 理恵	雑草物語	3枚組
小野 早苗	NEXT STAGE	
鈴木三枝子	仲良くお昼寝	
田村あかり	その手に掴むもの	
石原 康臣	クサバノカゲ	3枚組
SONG XINYI	FALL DOWN	3枚組
鈴木 雅代	ワイングラス	
笠井 晴子	つつまれる	2枚組
Rieko Suzuki	行ってもいい？	
林 大鉦	division/continuity	3枚組
大橋 晋	待ち人の春	3枚組
Junko Hirasawa	不登校な月曜日	3枚組
小島 満男	晴の臨港	
神 泰郎	走ると転ぶよ！	
津田 祥夫	街の緑陰	3枚組
竜崎 浩	絶対負けない	3枚組
立川 明	コロナとの闘い	3枚組
漆原 利大	守護の形象	3枚組
乾 清一	人猿共生	
小石川良一	シュール	
渡部百合子	風薫る頃	
福田 一幸	都会ーある予感	3枚組
峯岸 誠一	愛し子	3枚組

松島 千晶	Landscape of tall buidings (高層ビル群の風景)
-------	--

※掲載は作品番号順です。

このたびの神奈川県美術展は、昨年、新型コロナウイルスの影響で中止となった第56回展を改めて開催するというので、多くの人が待ち望んだ期待あふれる回となりました。工芸部門の出品数も、130人による160作品と、一昨年開催された第55回展の93名100作品を大きく上回り、審査員一同、嬉しい思いで審査に当たることができました。応募された方々にお礼申し上げます。

審査の手順については、まず、全応募作品から投票形式で入選作品83作品を選考。その後、再び投票形式で賞候補作9作品を絞り込み、その賞候補作品から投票によって大賞と準大賞を選びました。その他の賞については、受賞条件等を考慮しつつ合議によって決定しました。審査の過程で重視したのは、ありきたりの言い方になりますが、技法が自分のものになっているか、また、素材の性質を自分なりに見極めているか、というところです。

以下に、各受賞作品について、審査の際、特に評価が高かった部分をご紹介します。

大賞・谷敷謙さんの《OLLIE IN》は、木目込みの技術で制作されています。木目込みは、一般には人形作りに用いられる技法ですが、本作は、そのイメージを大きく覆しています。既存の技術を新しい表現技法としてよみがえらせている点は、きわめて高く評価できると思います。また、古着を使い、誰でも見覚えのあるようなロゴや柄をちりばめて、一種のポップアートとして成立している点にも興味をそそられます。

準大賞・牟田有沙さんの《existence》は、多種多様な素材を使った刺繍の作品。刺繍は、近年の注目ジャンルで、今回の神奈川県美術展でも多くの方が制作に取り入れていました。その中で、この作品の独自性は、刺繍の意味を「縫い留める」ということに特化した点にあると思います。縫い留めることを通して生まれる存在の確かさともいえるべきものが、ストレートに表現されて共感を呼びます。

特選・藤本りらさんの《ナニカ》は、二重織の布を服の形に仕立てた作品。ふっくらとしたウールと、

藍染の細手の綿糸という性質の異なる糸を合わせた、織としては難易度の高いものです。リバーシブルの服に仕立てることで、二重織の効果に説得力をもたせています。

奨励賞・安部里香さんの《月下の森》は、縫取織と経緋を組み合わせた織作品。非常に緻密な作品で、周囲を圧倒する迫力がありました。

県内在住の方を対象とした、かながわ賞・生頼美砂恵さんの《力》は、陶でつくられたオブジェ。鎖の部分のポリウム感と、その密度の高さに凄みがあります。

同じくかながわ賞・西本夏子さんの《窓辺Ⅱ》は、漆画の作品。独特の色彩と質感によって、絵具では出せない深みと奥行きが表現されています。重く幻想的な雰囲気も、現代の人物表現として魅力的です。

ホテルニューグランド賞・や万本遊幾さんの《訪問着 降り積もる雪》は、細密な友禅の作品。雪の結晶を華やかに散らした文様構成も新鮮ですが、一種の超絶技巧という意味で、きわめて現代的かつ挑発的な作品だと思います。

35歳以下の若手作家の賞である美術奨学会記念賞・山西なつ美さんの《それぞれの光をあつめて》は、いわば正統派の乾漆オブジェ。新しい形を生み出したいという作者の意思が、まっすぐ伝わってくるような清々しい作品だと思います。

同じく美術奨学会記念賞・山口香菜さんの《L'amour》は、麻布を用いた染めのパネル作品。染料の染み込みと重なりから生まれる独特の透明感に魅力があります。うっすらと透けるような儚い光の表現に、現代の視覚の特徴がよく表れていると思います。

総じて、緻密で完成度の高い力作が多かったように感じられた、このたびの工芸部門出品作。それは、今という時代を覆っている底知れない不安や戸惑いを、確かな造形技術の実践によって払拭しようという意思の反映であったのかもれません。



大賞

OLLIE IN

谷敷 謙

古着・コーマボンチ・アクリル
染料・紙粘土・スタイロフォーム
238×300×6cm 12kg

[略歴]

1983年 東京都生まれ
1983年～1990年 アメリカ／カリフォルニア州／サンディエゴ
1990年～1996年 日本／東京
1996年～1999年 シンガポール／シンガポール日本人中学校／卒業
1999年～2002年 日本／東京学芸大学高等学校／卒業
2003年～2009年 杉野服飾大学／卒業

[主な受賞歴]

2007年12月 JFW JAPAN CREATION TEXTILE CONTEST 2008 新人賞
2018年9月 第25回 ユザワヤ創作大賞展 グランプリ
2019年1月 第1回 タガワアートビエンナーレ 佳作賞
2019年3月 第54回 昭和会展 東京海上日動賞
2019年3月 第54回 昭和会展 ニューヨーク賞
2019年6月 ART OLYMPIA 2019 優秀賞
2019年7月 神奈川県美術展 入選
2020年2月 FACE 2020 損保ジャパン興亜美術賞 入選
2020年9月 SICF21 オーディエンス賞&ワコールスタディホール京都奨励賞
2020年12月 UNKNOWN ASIA 2020 イープラス賞&レビューア賞



準大賞

existence

牟田 有沙

絹・麻・タイベック・絹糸・綿糸
160×140×0.5cm 1kg

〔略歴〕

1991年 神奈川県生まれ

2015年 女子美術大学 芸術学部デザイン・工芸学科工芸専攻(刺繍)卒業

2020年～現在 女子美術大学 芸術学部デザイン・工芸学科工芸専攻 非常勤講師

〔展覧会〕

2013年 Tradition × Innovation (Spiral Garden)

刺繍を学ぶ(香美市立美術館)

2016年 創る、伝える、繋がる 女子美術大学デザイン・工芸学科 工芸専攻教員作品展(女子美術大学美術館)

2018年 embroidery～展(神宮前ギャラリー)

絵を描く糸 刺繍美術展(一宮市立三岸節子記念美術館)

2019年 染織文化の探究と創造 彩・綴・綾(女子美術大学美術館)

2021年 JTC テキスタイル の未来展 in 宝塚 2021(宝塚市文化芸術センター)



特選

ナニカ

藤本 りら

ウール糸・綿糸

130×60×25cm 2kg



奨励賞

月下の森

安部 里香

絹糸・紬糸

160×160×20cm



かながわ賞

力

生頼 美砂恵

粘土

27×70×35cm 12kg



かながわ賞

窓辺Ⅱ

西本 夏子

木材・漆

38.2×27.1×1cm 0.7kg

美術奨学会記念賞

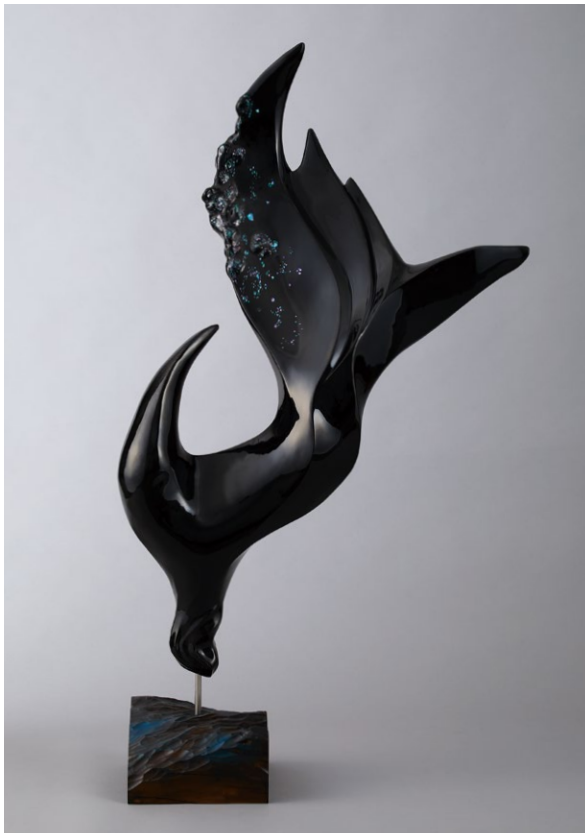
L' amour

山口 香菜

麻布・染料

180×150×3cm 25kg





美術奨学会記念賞

それぞれの光をあつめて

山西 なつ美

乾漆(漆・麻布)／螺鈿・木材
117×55×40cm 6kg

ホテルニューグランド賞

訪問着 降り積もる雪
や万本遊幾

染織
175×140×1cm 1kg



昨年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況にしたがい、県の方針に基づいて神奈川県美術展は中止された。よって本展が、第56回目の開催となった。出品を希望する面々においては、およそ一年間の充電を経て制作された作品となる。今回は176点が集い、ここ3回では最も多い出品数であった。審査にあたっては、前日からしっかりと感染症対策が準備され、会場内には3密回避の工夫が所々なされて、審査員ほか審査に関わる者全員が、安全安心の環境下で、公正なる審査を無事に完遂することができた。

まず、第一次審査では、各審査員は5段階で評価を行い、その総合点によって入選候補となる作品数が120点に絞られた。そしてその内の下位61点分を再審査の対象として、再度、丁寧に審査した結果、32点が通過。都合、計91点の入選が確定した。各受賞作の選定においては、得点数の上位21点から選出することとし、審査員同士の忌憚なき協議の上で各賞が決定されたものである。

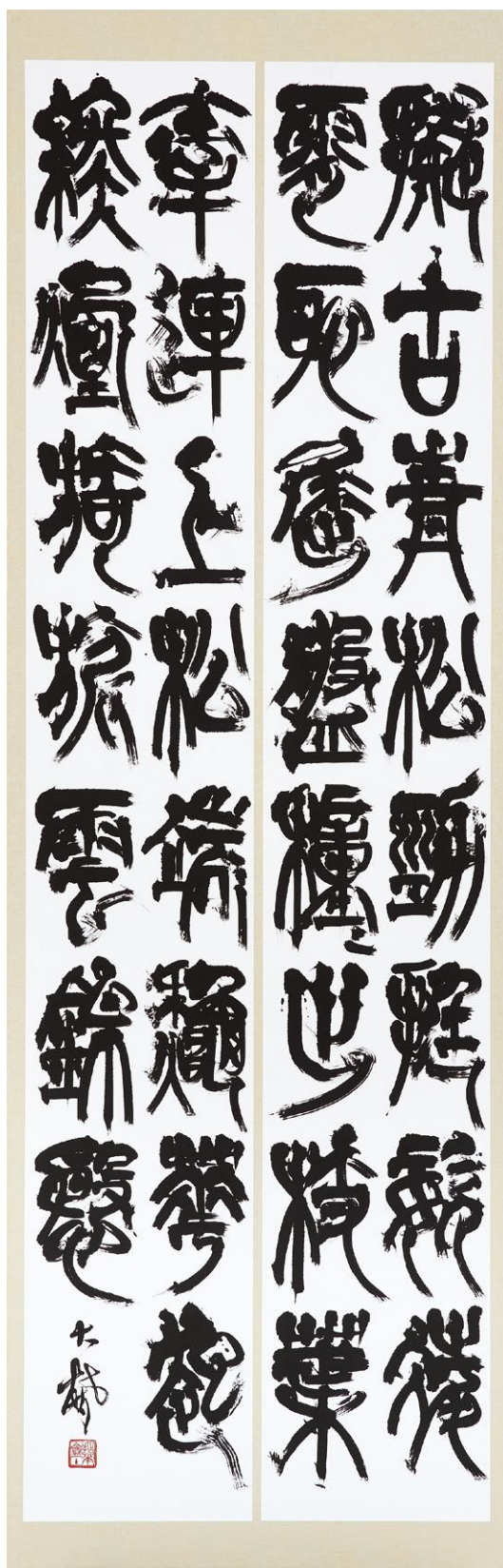
まず審査時の状況全般について、気づいた点等を簡潔にまとめておこう。

漢字書は今年も行草多字数の三行縦構成が大半を占めていたが、例年に比べて書体の変相とっていいだろうか、古文体、細字、少字数、前衛等に及んで、さまざまな書体・書風や形式の工夫が積極的に認められたことは、本展としては一歩も二歩も前進といえる。仮名書はまだまだ出品数の増加が求められる中、臨書、倣書、中字・大字の創作などへ挑戦する意欲の拡がり、今年の新傾向としてうかがえた。最終選考にも5点が残ったことは特筆しておきたい。詩文書は例年のとおり出品数は多かった一方で、おおかたに主張性の弱さが認められた。人の言葉を直に扱うこの分野では、筆墨の表情で、言葉自体の明確な主張性を語らせねばならない。その点が希薄で、やや無難なまとまり方をしたものが多かったように感じた。こうした印象は、どこか漢字書、仮名書、篆刻の全ての作風に一貫しているように想われたのは、コロナ禍の事情を背景に負って

る事なのかもしれない。作品は、つねに作家の意志を映し出す。発表される時々の自身の姿が、投影されるのは技術的な面ばかりではなさそうだ。体がどれだけ健康であっても、心の健康や健全さといった機微には、常に留意する必要があるだろう。

次に上位受賞作について、審査員の声を参考に見解をまとめておく。

大賞に選ばれた山口大夢氏の「米芾蜀素帖一節」は、小篆を用いて清朝風の造形感覚と強靱な筆致を特徴とした力作。筆勢の変化が全面を覆い、それが自然と装飾性を帯びて感じられ、瑞々しい印象を醸していた。あたかも中国・近代作家に似た妙趣を彷彿とさせた魅力が、審査員の高い評価を受けた。準大賞は、高原香蘭氏の中字仮名の作品「山の端の」。横展開の場合、起・承・転・結の構成を基本とし、その散らし方や構図では山場の見せ方が課題となる。中盤で大胆に展開させようとする際、行頭の並びの変化、行半ばの抑揚の組み立て等には意識が及ぶものの、行脚の処理に苦戦する場合が実に多い。本作でも5行目から9行目まで、同じ表情で横並びに展開している点が明確で、ここに課題を残した。特選の平澤毅氏「天神様のお祭り」は、熟達した運筆、深みある筆意をもって、丁寧に書き上げられた詩文書であった。唸々とした言葉の呼吸は、潤筆たっぷりの濃厚な書風で伝えることも効果的である。さらに筆意に抑揚や筆勢が付加されたなら、もっと笑みを誘う大らかな表情が出ただろう。最後の細字のまとめ具合も、次の課題であろうか。



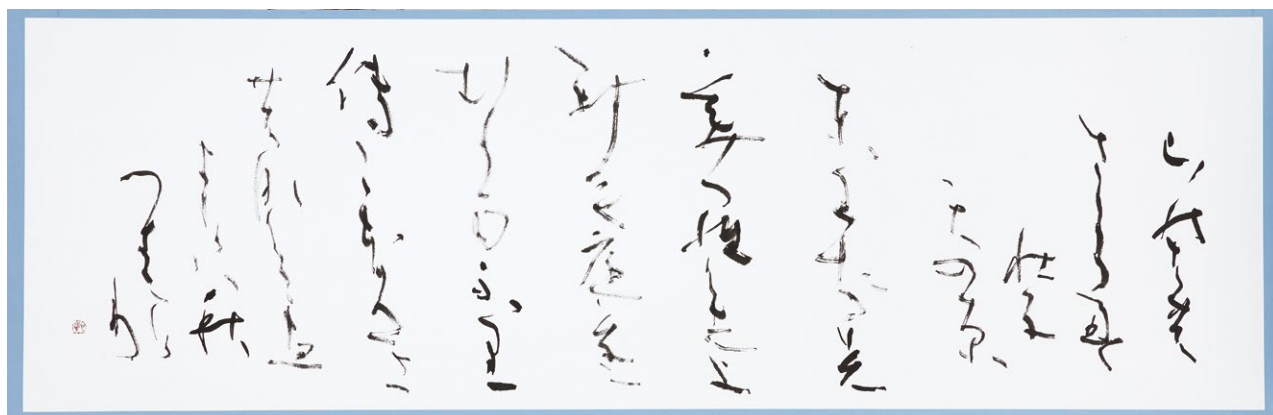
大賞

米芾 蜀素帖一節
山口 大夢

182×61cm

[略歴]

1987年 鹿児島県生まれ
2009年 大東文化大学卒業
日展入選6回
読売書法会 理事
謙慎書道会 常任理事
川崎市書道連盟 常任理事



準大賞

山の端の
高原 香蘭

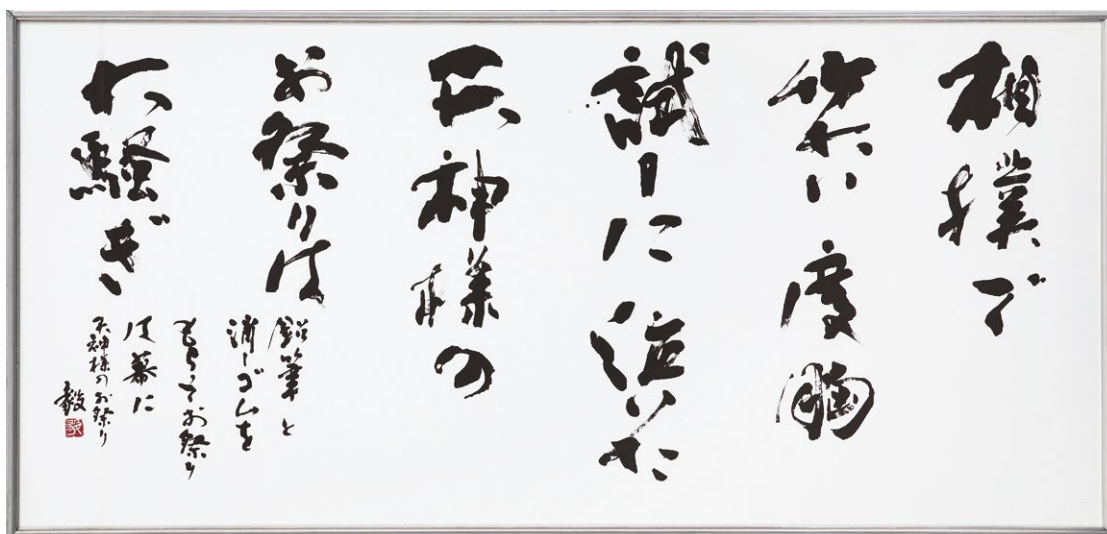
60×180cm

【略歴】

平成27年12月 読売書法会 会友
年数忘れ 青丹会 準同人
平成29年2月 竹青社 理事

【受賞歴】

平成22年12月 竹青社展 秀作
平成24年12月 竹青社展 テレビ神奈川賞
平成25年11月 竹青社展 秀作
平成26年4月 青丹会 奨励賞
平成26年12月 竹青社展 神奈川県議会議長賞
平成28年11月 竹青社展 横浜市教育委員会賞
平成28年4月 青丹会 奨励賞
平成31年4月 青丹会 青丹会賞
令和3年4月 青丹会 青丹会賞



特選

天神様のお祭り

平澤 毅

73×152cm



奨励賞

光に舞う群生

笠原 啓子

152×73cm



かながわ賞

波の聲 (自作)

久村 拓司

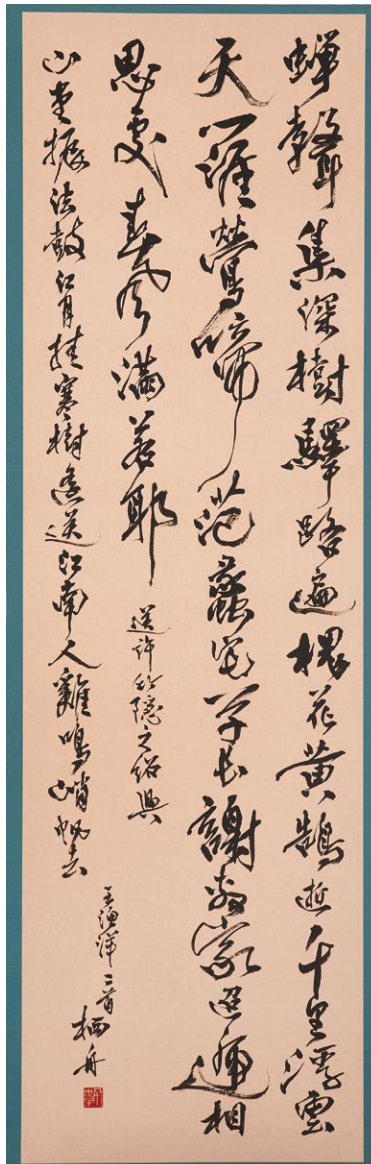
182×61cm

かながわ賞

王漁洋二首

松田 栖舟

182×61cm



美術奨学会記念賞

蘇軾詩

小山 蘇龍

182×61cm



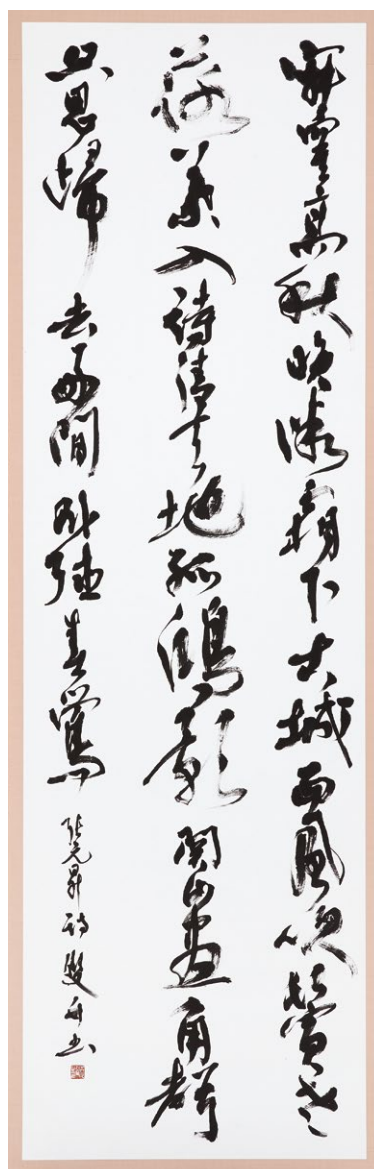


美術奨学会記念賞

光求めて

日守 鍊

121×91cm



県文具事務用品団体連合会賞

高秋

水川 雙竹

180×60cm

いまや誰もが手にしている携帯電話に高画質のカメラが入っている時代です。写真は言葉と同じくらい親しみやすく、使いやすいものになったと言えるでしょう。今回の審査でも気取らないスナップ写真から、パソコンで画像処理し、現実には存在しないイメージを究めようとした写真まで、さまざまな作品を拝見することができました。

議論になったのは大賞の選考です。DONG YUEYINGさんの「Unnatural」と石田省三郎さんの「TUKIJI JONAI」は対照的な作品でした。「Unnatural」は撮影した写真をもとにつくりこんだコンストラクテッド・フォト（構成された写真）。一方、「TUKIJI JONAI」は対象となるモノや場所にカメラを向けたドキュメンタリー・フォト（記録写真）。片やカラー、片やモノクロ。この2つのどちらが大賞にふさわしいかについて意見を出し合い、最終的に1票差で「Unnatural」が大賞を受賞しました。

DONG YUEYINGさんの「Unnatural」は一見、イラストにも見える非現実的な画像です。しかし、よく見ると小さく写っている人物は実にリアル。合成されたと思われる背景はエッシャーの騙し絵を思わせる複雑な構造になっていてイメージの中に迷い込む楽しさを与えてくれます。カラフルな色合いは1970年代から活躍しているアメリカのアーティスト、サンディ・スコグランドの写真作品を思わせ、美術史との関連からも解釈したくなる作品です。

準大賞の石田省三郎さんの「TUKIJI JONAI」はカメラの持つ記録する能力と、肉眼では見過ごしてしまいそうなモノたちを見るという写真の力を存分に生かした作品です。築地市場が積み重ねてきた長い時間と、そこに関わっていた人々の痕跡がくっきりと浮かび上がっています。端正なプリントも審査員の支持を集めました。応募者全体に言えることですが、プリントの完成度は作品の完成度に直結するので、応募前にそのクオリティーで良いかどうかを考えてみることをおすすめします。

特選の横山渚さんの「何かを読んで見るには」は黑白写真という写真の伝統と、写真を見るとはどう

いうことか？ という時代を超えた問いを見る者に投げかける作品です。銀塩プリントの完成度と、作品が醸し出すムードに魅力を感じました。

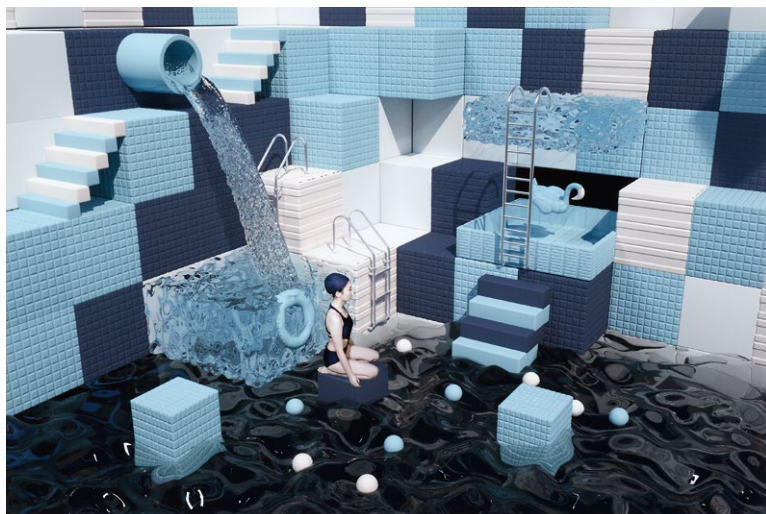
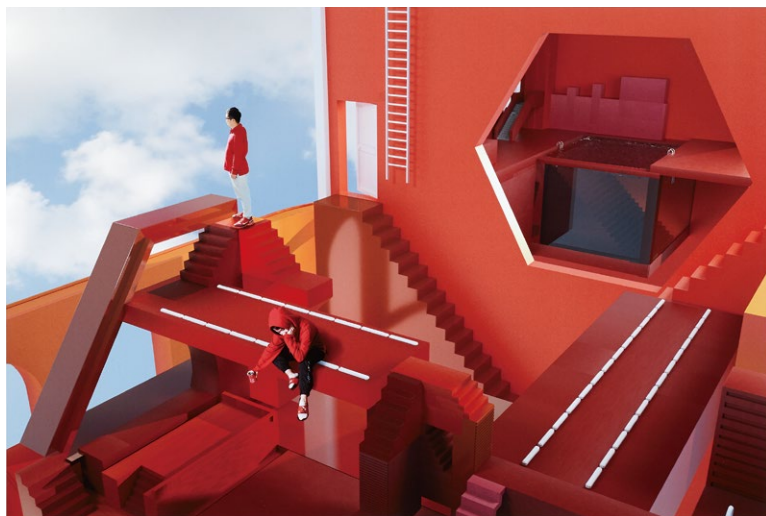
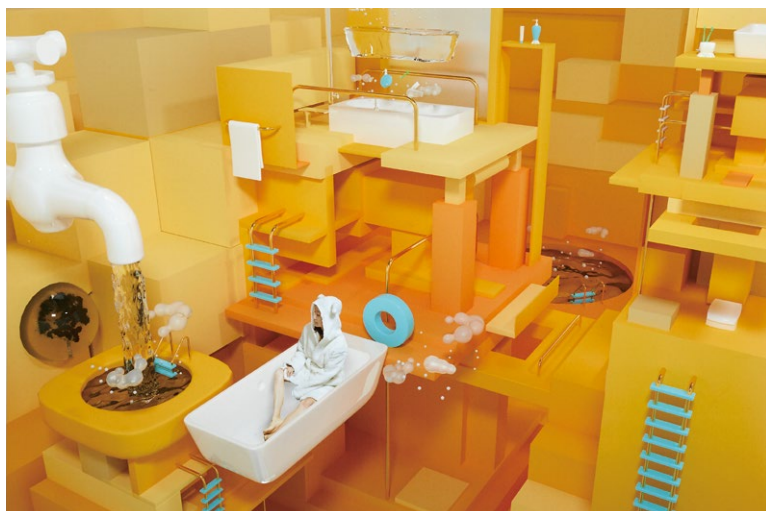
奨励賞に選ばれた小島輝夫さんの「雪山、残照に輝く」とセキナオコさんの「平行線を引く」もまた写真表現の幅広さを象徴しています。「雪山、残照に輝く」はタイトルの通り、雪山の山並みを造形的に捉えるだけでなく、光が織りなす「その時」の尊さを見事に描き出しています。一方、「平行線を引く」は1点写真ですが、よく見ると100枚以上の写真のコラージュになっています。1枚で二度と来ない時間を描くか、100回以上シャッターを切るか。方向性は違いますが、どちらも写真の特性を生かしています。

かながわ賞の2作品、三村信昭さんの「ステイホームの日」と伊東隆文さんの「海」はどちらもスナップショット（速写）の魅力があります。「ステイホームの日」の家族それぞれの位置と表情、「海」の海辺と人物の位置は、次の瞬間には変わってしまうかもしれません。写真はその一瞬しか存在しない時間を切ることができるのです。

美術奨学会記念賞のあべまさひろさんの「親愛なるゴンザレスへ」はミステリアスな作品です。森に置かれた椅子とスーツと革靴、供えられた花から、実在するかも定かではない人物について想像をめぐらせてしまいます。

同じく美術奨学会記念賞の鈴木ちひろさんの「Gravity」は俯瞰で捉えることで、現実を抽象画のように変えて見せています。また、写真部門から厚木賞に推薦させていただき、受賞された須金孝子さんの「わたし綺麗？」もまたフレーミングによって、鳥の意外な姿を描いた作品だと言えるでしょう。

写真は現実をもとに「イメージをつくる」こともできれば、現実を「フレーミングする」ことだけでも世界を発見できる。可能性に富んだメディアなのです。



大賞

Unnatural
DONG YUEYING

[略歴]
2019年 上海视觉艺术学院
写真学科卒業
2021年 東北芸術工科大学
複合芸術領域在籍



準大賞

TUKIJI JONAI

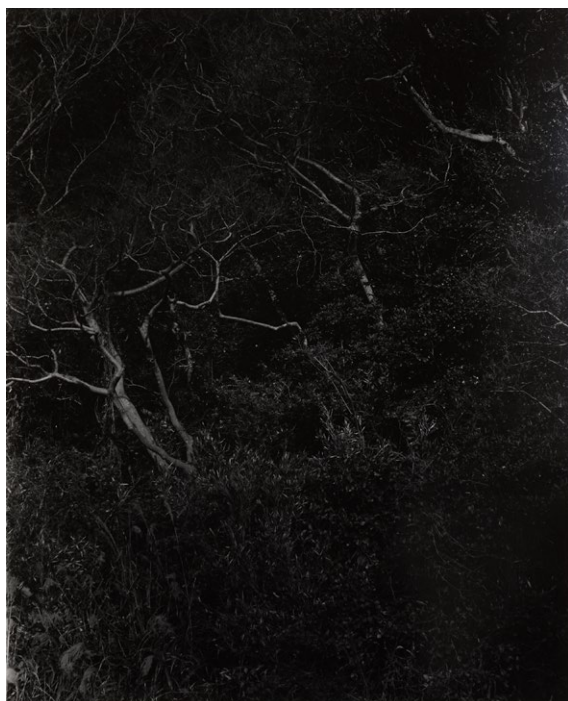
石田 省三郎

〔経歴〕

1946年 生まれ 茅ヶ崎市在住
1969年 中央大学法学部卒業
1973年 弁護士登録 第二東京弁護士会
2017年 京都造形芸術大学通信教育部芸術学部写真
コース卒業

〔個展〕

2018年 「Radiation Buscape」 (IG Photo Gallery)
2019年 「Crossing Ray」 (HIJU Gallery)
2021年 「Integral」 (IG Photo Gallery)
など

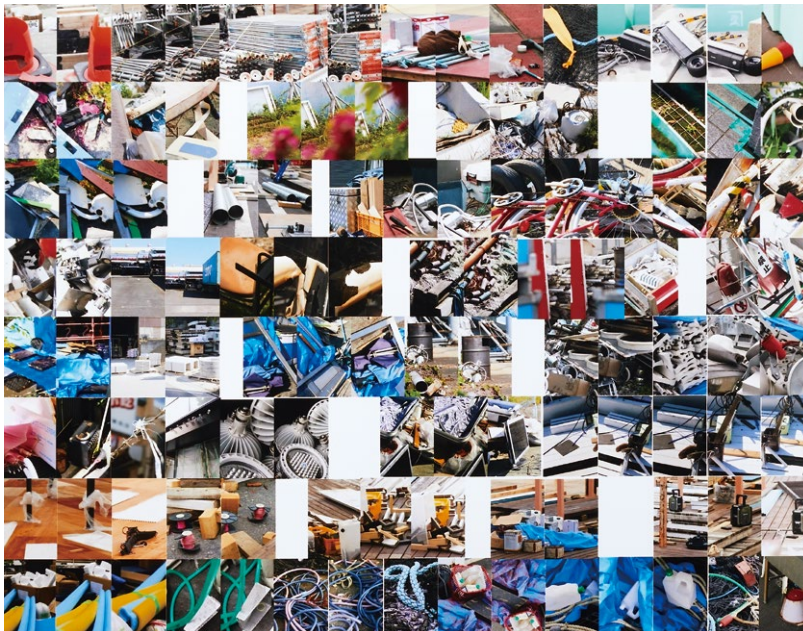


特選

何かを読んで見るには
横山 渚

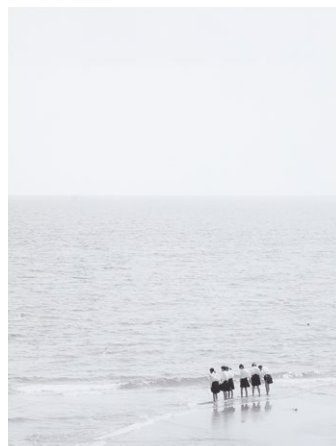
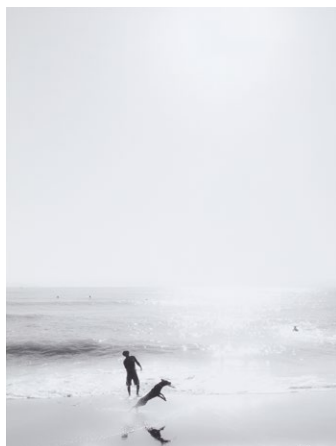
奨励賞

雪山、残照に輝く
小島 輝夫



奨励賞

平行線を引く
セキ ナオコ



かながわ賞

海

伊東 隆文



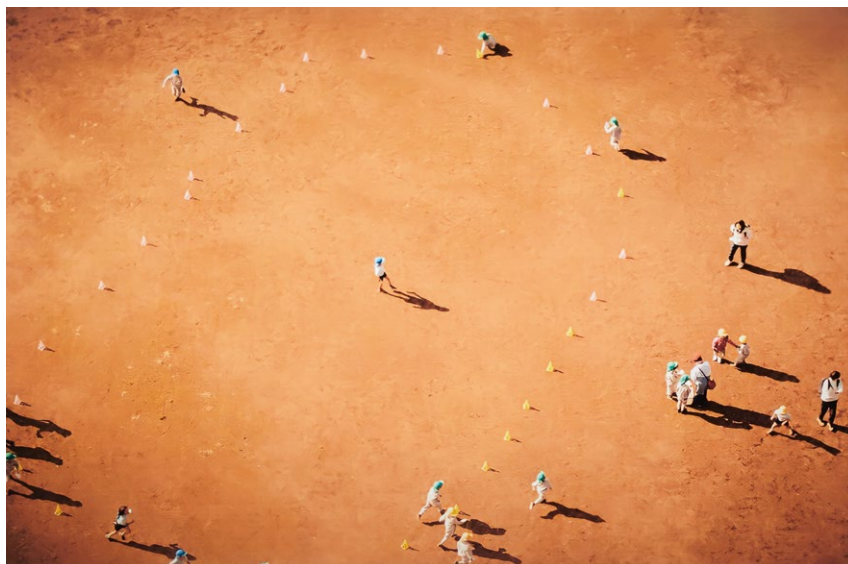
かながわ賞

ステイホームの日

三村 信昭

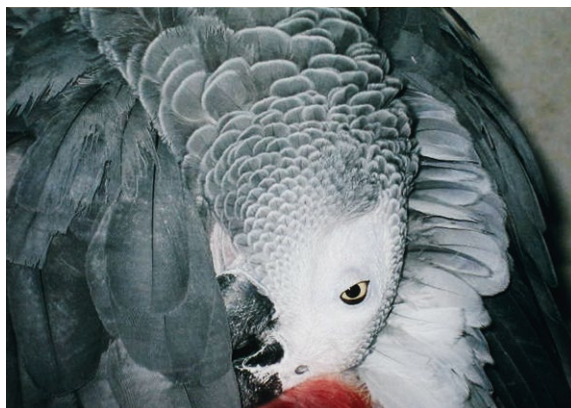
美術奨学会記念賞

親愛なるゴンザレスへ
あべ まさひろ



美術奨学会記念賞

Gravity
鈴木 ちひろ



厚木市文化振興財団賞

わたし綺麗？

須釜 孝子

人から人へ情報を伝えて72年
これからも人の心に残る製品を創ります。



UV印刷機導入いたしました

画集・美術展図録を制作から印刷・製本・納品まで
一貫した体制で承ります。お気軽にお問い合わせ下さい。

株式
会社 **気生堂印刷所**
<http://www.kiseido.jp>

〒143-0015 東京都大田区大森西4丁目6番13号
Tel.03-3766-1711 Fax.03-3766-1976
e-mail: print@kiseido.jp

The 56th Kanagawa Art Exhibition 2021
第56回 神奈川県美術展

発行：神奈川県美術展委員会
神奈川県民ホール内
〒231-0023 横浜市中区山下町3-1
TEL.045-662-5901(代)
写真撮影：秋葉雅士
印刷：株式会社気生堂印刷所
発行：2021年8月25日



The background of the entire page is a light gray gradient. It is decorated with numerous yellow paint splatters of various sizes and shapes. A dense cluster of small and medium-sized splatters is located in the upper left quadrant. Another group of larger, more irregular splatters is in the lower right quadrant. Scattered individual dots and small blotches are also visible across the rest of the page.

THE 56TH
KANAGAWA ART EXHIBITION
2021